

地域で不足している外来医療機能（予防接種） に関する検討について

1 概要

(1) 経緯

国のガイドラインに基づき、令和2年3月に「愛知県地域保健医療計画」の一部として「愛知県外来医療計画」（令和6年3月29日公示、計画期間：令和6～8年度）を策定し、外来医療に関する情報の提供を行うとともに、外来医療機関間での機能分化・連携の方針等を協議する場を設置して、外来医療に係る取組を推進しているところです。

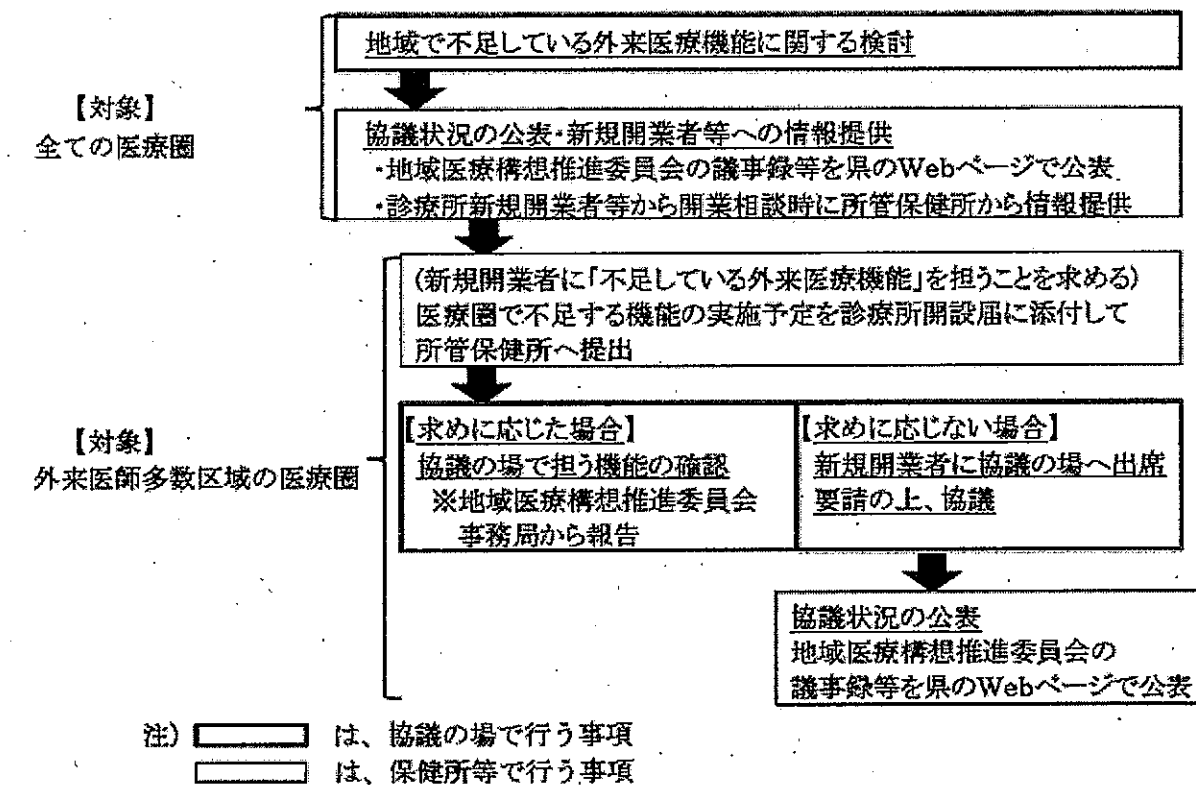
(2) 検討

- 外来医療計画において、ガイドラインで示す外来医療機能（初期救急医療、在宅医療、産業医、学校医、予防接種等の公衆衛生に係る医療）について、今後の需要増や担い手の不足等により不足していくことが見込まれることから、協議の場において、地域で不足している外来医療機能に関する検討を行うこととされています。
- 尾張西部医療圏（構想区域）は、協議の場（令和2年度第2回尾張西部構想区域地域医療構想推進委員会・令和3年1月29日開催）での協議の結果、「初期救急医療、在宅医療、公衆衛生医療（産業医・学校医）」を地域で不足していない外来医療機能と位置付けています。

2 外来医療機能（予防接種）の現状

「予防接種を実施する医療機関の状況」参照……資料2

3 地域で不足している外来医療機能に係るプロセス図



4 地域の外来医療機能の現状（事務局案）

公衆衛生医療（予防接種）については、ワクチンの種類により差があるものの、定期接種のA類疾病においては、多数の定期接種ワクチンで愛知県平均を上回っています。定期接種のB類疾病においては、愛知県平均と比較すると遜色ない状況になっています。任意接種においては、半数以上のワクチンで愛知県平均を上回っており、平均以下のワクチンも概ね上位5件以内の順位であり、地域において特段の問題は起きていないと思われます。

また、参考に各市の状況を確認してみたところ、ワクチンの種類によっては、市により差がみられますが、地域で不足していない外来医療機能と位置付けます。